R4.2.20
光家弘子

8ー話力を高めるために

位置付け：
　話し方の最終コース最終単元。話し方を学んできた私たちの仕上げの単元でもある。ここでは２つのことを考えて頂くところである。その２つとは
　　①今までの学びを振り返り、(自分自身を)「**見つめる**」
　　②そこから自分自身の(将来を)「**考える**」

１．話力の向上と言行の一致
　話し方を勉強して身についたこと①～⑤
　　①人前であがることが少なくなった②話の無駄が減った③人の話をよく聞くようになった④人の気持ちを察するようになった⑤生活のなかでハッと気づくことが多くなった
　心の働きの進歩「**底力**」がついたことを実感する。
「**底力**」とは、今までの勉強によって生活面においてプラスとなったことすべてを言う。だから自信を持つこと。話し方は実学として生かされていることを分かってもらうところでもある。

　＊①～⑤については、話し方を勉強する前の自分と、勉強後の自分を比較検討することにより、理解できるところである。

　しかし自信が**過信**にならないようテキストの後半は、戒めへと展開する。過信するようになると、知らず知らずの間に、人には**おごり**が生じる。そうなると、「口先のわざ」を使い「**自分を合理化**」してしまう。
　「自分を合理化する」⇔何か問題が発生した時でも、自分は上手な言い訳をして責任を取らず、人のせいにすることを言う。
＊事例紹介
　私たちはあくまでも、謙虚に自己の内容の充実に努めること。
　「奢れるもの久しからず」「実るほど、頭を垂れる稲穂かな」の諺を再認識するところである。では、一体、**言行を一致させるには**どのようすればよいかを、次の　２．言行を一致させるには　の５項目で確認する。